

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072900303		
法人名	社会福祉法人 長生会		
事業所名	グループホーム美鈴ヶ丘		
所在地	福岡県小郡市三沢5430		
自己評価作成日	平成23年3月12日	評価結果確定日	平成23年6月22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年4月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>同一敷地内にケアハウス、デイサービスが併設。広大な敷地内には季節を感じられる花や草木があり、自然に恵まれた環境にあります。ホームで飼っている犬をはじめ、鯉や金魚、亀などの動物が入居者の方を癒してくれています。職員一同、入居者の皆様がほのぼのとした雰囲気の中、穏やかに暮らしていける環境作りに努めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>新興住宅地に隣接する当地に広大な敷地を有し、日常的に自然を感じることができる周辺環境の中に位置している。室内の生活環境についてもゆとりある空間が確保されており、ホールには思い出の品々を飾るスペースが設けられる等、工夫や温かみが各所から伝わってくる。また、入居者、各担当職員による居室作りは特筆すべき点であり、家具やベッドの配置の工夫、机の上には趣味活動のための品々が並んでいたり、お茶やコーヒーを嗜むための道具が持ちこまれていたり、その人らしさが表現された、生活感あふれるプライベート空間となっている。多様な福祉サービスを展開する母体法人としての連携を活かして、入居者本位のサービスの向上、職員のスキルアップや自己実現につなげており、穏やかな日常の暮らしをさりげなく支援しながら、今後も地域の中での存在の高まりが期待される事業所である。</p>

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
理念に基づく運営				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1. 人格尊重 2. 礼節と尊敬の念を持ち接する 3. 地域住民との交流支援 4. 自己研鑽 以上の運営理念を管理者、職員は念頭に置いて業務を行っている。	「地域にとけ込んだ生活が実感できるよう地域住民との交流を支援します。」を運営理念の一つとしている。新規採用時にはまず理念の共有を図り、ミーティング等において定期的に理念について振り返る機会を持ちながら、日常の確認や職員への意識付けを行っている。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる催し物に招待を受けたり、事業所で行うお祭りに地域の方を招待したりして交流を図っている。	地域、事業所が相互に情報提供を行い、交流の機会をもっている。地域のサークル活動や専門学校文化祭への参加、敷地内のケアハウスとの交流や定期的なボランティアの来訪等がある。三国中学校生徒の職場体験を受け入れている。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議などで地域の代表者に、認知症介護の実践状況、支援方法をその都度報告を行い、地域の情報などを元に協議している。	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域の代表者、行政代表者らに入居者の状況や、サービスの実際等を報告し、それに対する意見、提案を受け、より良いサービスが提供できるように活かしている。外部評価についても評価内容や実践状況を報告している。	入居者代表、家族代表、地域代表、老人会会長、公民館長、行政担当者、法人理事長等、多彩なメンバー構成により、定期開催されている。また、区境に位置している為、三沢・美鈴ヶ丘両地区の区長の参加を得ている。ホームの状況報告はもとより、地域からの情報提供を受け外出行事に組み入れられたりと、地域との交流、連携窓口としての機能を持っている。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議の際や、必要に応じて電話連絡や市役所に伺い、その都度、事業所の状況、サービスの取り組みなどを伝えている。	運営推進会議には、市町村担当者の出席を得ている。また、困難事例への対応や、研修参加等の機会を通じて、行政や包括支援センター職員との連携や情報共有に努めている。派出所や消防署にも情報を発信し、連携を図っている。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に職員ミーティングの中で勉強会を行い、職員一同周知徹底を図り、実践している。	医師や家族との連携を図り、薬や言葉による抑制にも意識を持ちながら、寄り添うケアに日々取り組んでいる。研修計画の中に組み入れ、ミーティング等においても意識を高めながら、職員間の共通認識を図っている。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での勉強会、行政をはじめとする各機関で行われる研修等にも積極的に参加しており、事業所内での虐待防止に努めている。	

福岡県 グループホーム 美鈴ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内での勉強会、行政をはじめとする各機関で行われる研修等にも積極的に参加している。現在、成年後見制度を利用されている方が1名入居されている。	入居契約時に、権利擁護に関する制度について、本人、家族への説明を行っている。現在、制度を活用している方もおり、資料の整備や研修参加等を通じて知識や理解を深めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を元に、利用者及びご家族に十分な説明を行い、理解と納得を得た上で契約、解約、改定等の手続きを行っている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者にはその都度、生活の中で意見要望を伺い、ご家族には面会時、または意見箱を設置しており運営に反映させている。	年2回、ユニット毎に家族会を開催しており、家族だけで話をする事が出来る時間を設けている。意見や要望があった場合には、職員への周知及び運営推進会議にて議題として取り上げる等、開かれた事業所としての取り組みが確認できる。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回職員ミーティングにて、施設長、管理者、職員が意見交換する場を設けている。	週例・月例ミーティングを通じて、職員の意見や提案を収集しており、休憩時間の設定や備品の整備等、業務に反映されている。母体法人代表者の意向もあり、職員の提案やアイデアを大切に捉え、協議、反映していかうとする方針がある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者、又は職員が意見交換する場を適宜設けて、職場環境、条件の整備をその都度行っている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢にこだわらずに、個々の能力に目を向け幅広い人材を採用している。採用後も能力が最大限生かせるようバックアップを行っている。	職員の採用にあたっては、やる気や思いを重視し、年齢や性別等による排除は行っていない。また、採用後の資格取得を積極的に支援し、法人としての勉強会も実施されている。職場旅行の実施や懇親会の開催、産休の取得や職場復帰へ向けての配慮等、働きやすい職場環境作りへの充実した取り組みが確認できる。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体で新人研修を行なっている。又、事業所ごとにも勉強会を実施し、重要な事は職員ミーティングで発表し共有している。	行政等の主催する研修に参加し、会議の中で伝達が行われている。また、高齢者虐待防止、身体拘束、認知症ケア、倫理・法令遵守、プライバシー保護等の研修を通じて、職員への人権教育、啓発を行っている。	

福岡県 グループホーム 美鈴ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回ずつフロアミーティング、職員ミーティングにて利用者の処遇などに関する勉強会を行っており、自治体や協会が実施する研修にも積極的に参加しており研鑽に努めている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の地域密着型サービス、施設との交流を行っており、処遇や事例などを検討している。同業者は施設の見学などの受入や依頼を通じて交流している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	思いを安心して表出できるように初期の信頼関係作りに努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークの際、入居に至った経緯等を勘案し、不安な事、分からない事などに丁寧に対応し説明を行っている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前に、本人、家族、関係者に面談によるアセスメントをとり、本人が必要としているサービスを見極めて提供している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の力を発揮できる生活作りを支援している。本人とのコミュニケーションは本人の感情に添いながら対応している。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診や個別の外出の際にはご家族に付き添いをお願いしている。ご家族には気軽に行事にも参加して頂けるように呼びかけを行っており、家族同士の交流機会を大切にしている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	小郡市の行事や地域の祭りなどに参加してその人にとって馴染みの場所や人と関係が途切れないように努めている。	居室に個人として電話を設置している方もおり、通話するための支援を行ったり、馴染みの方の来訪をともに歓迎している。また、自宅の状況を心配する方とともに様子を見に出掛けたり、馴染みの地域行事への参加を支援している。	

福岡県 グループホーム 美鈴ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの性格を把握して、孤立しないように配慮している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も必要に応じて、本人、ご家族様に相談援助を行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、入居者に接する中で、一人ひとりの希望、要望、思いなどを的確に把握できるように、表情や言動などを注意深く観察している。	アセスメント情報として生活歴や趣味等を把握し、思いや意向の把握へと結び付けている。入浴時等、職員と1対1になる場面で発せられる何気ない言葉を大切に捉え、職員間で共有している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、ご家族、その他関係者から情報を得て把握に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者それぞれ個別に生活記録を作成。又、職員間で申し送りを徹底し、現状把握に努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族の希望・要望を十分に聞き取り、主治医や必要な関係者の意見を聞き、その人にとって必要な介護計画を作成している。	ユニットにより多少異なるが、本人、家族の意向を踏まえ、計画作成担当者及び各居室担当者による立案を検討しながら、介護計画作成が行われている。また、「介護計画の実施と評価」を、毎月家族へ送付している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活記録を記入し、重要な事は申し送りノートに記入して職員間で情報が行き渡るようにしている。その情報をもとに介護計画の見直しを行っている。		

福岡県 グループホーム 美鈴ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な要望にも本人、家族の希望に添えるよう出来る範囲で柔軟なサービス提供を行っている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方たちに月に1回来訪して頂き、入居者の皆様にセラピーをしてもったり、会話などで交流している。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診先は、本人、家族の希望するところに受診してもらっている。	本人、家族の意向による、これまでのかかりつけ医の継続を支援しており、基本的には、家族による受診となる。状況に応じた往診体制の確立や、緊急時の協力医療機関との連携体制の整備等、適切な医療活用へ向けた支援が行われている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、事業所内には看護師は在籍していない為、法人内施設の看護師に相談し、助言、協力を得ている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に入院先に訪問し、主治医、相談員、家族と連絡を取ると共に、本人が不安にならぬよう面会して、早期に退院出来るように努め、退院後安心して生活が出来るように受け入れ体制を整えている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期が考えられる利用者に対して、家族の今後の考えを聞き、主治医の意見も参考にしながら方針を決めている。必要に応じて他施設の紹介も行っている。	入居時に、重度化や終末期に向けた方針を説明している。状況に応じて関係者間の話し合いを重ね、ホームとして、また法人内の連携も含めた対応について説明を行い、方針を共有している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に備えて定期的に応急手当や初期対応などのマニュアルを準備しており、周知徹底を図っている。必要に応じ見直しも行っている。		

福岡県 グループホーム 美鈴ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応マニュアルを作り、定期的に昼間、夜間それぞれを想定した避難訓練を消防署立会いのもと実施している。非常通報システムに近所の方に登録して頂くなど地域への協力体制作りにも努めている。	年2回、消防署の指導のもと、昼夜を想定した避難訓練を実施しており、入居者も参加している。また、訓練後には課題検討を行い、防災や災害時の対応について、意識を高めている。敷地内のケアハウス入居者・職員との連携や、通報システムの登録先として近隣住民の協力を得ている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々、運営理念の一つでもある人格尊重を念頭に置いて支援を行っている。又、事業所内での勉強会を行うことで再確認し、初心を忘れないように心掛けている。	理念として人格の尊重を掲げており、入居者個々人を理解していく事に努め、また、その人らしい時間の流れや居室作りを大切にしている。管理者、職員の声かけは穏やかであり、さりげない対応が行われていた。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりとした口調で声掛けを行い、目線を合わせて寄り添う事で信頼関係の構築に努めながら、何気ない言葉やしぐさを観察して思いや希望を汲み取る事ができるように働きかけている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活習慣、希望を損なわないようにそれぞれのペースを尊重して支援を行っている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己管理の出来る方については好みの衣類を入居者本位で選別して着用して頂いている。散髪は月に1度の移動理美容を利用して頂いている。個別に美容室に行かれる際はご家族に付き添いの協力を得ている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力に応じて、テーブルを拭く等の配膳準備や食後のお盆拭きなどをして頂いている。	法人の栄養士による献立をもとに、個別の状況や嗜好にも配慮しながら、その日の担当職員による調理が行われている。職員も同じテーブルを囲み、ゆっくりとした食事風景があった。外食Dayを設けたり、宅配サービスの利用等、普段とは違った「食」を楽しむ機会も確保している。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が必要な栄養量を計算したメニューを基本に調理し、個別に食事形態、量などを調整して提供している。		

福岡県 グループホーム 美鈴ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者一人ひとりの状態に合わせて、毎食後口腔ケアの声掛けや見守り、一部介助を行っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄記録をとることで排泄パターンを把握し、声掛け、誘導をプライバシーに配慮しながら行っている。	個別の状況やパターンの把握に努め、タイミングを考えながら、さりげない声かけやトイレ誘導を行っている。特にプライバシーの確保については留意し、不安感や羞恥心への配慮に努めている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の有無を確認して記録している。便秘がちな方に関しては個別にヨーグルトなどの乳製品を摂取して頂いている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者一人ひとりが、ゆっくりとスムーズに入浴できるように、声掛のタイミングなどをその都度工夫しながら行っている。	毎日入浴準備を行い、希望や状況に柔軟に対応している。ゆっくりとした時間を過ごせるよう配慮しながら、コミュニケーションを図る機会としても活用している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の状況に応じて、個別の居室で休養していただいている。一日の過ごし方は入居者本位を心掛けている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの薬の用法、用量、副作用を理解し、服薬の際は確実に服用していただけるように介助している。服用により普段と違う様子が有る場合は、家族、主治医に報告している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々の能力に応じて、本人本意の役割を生活の中で見つけていくように努め、実践している。本人の性格、嗜好、生活歴も十分に考慮している。		

福岡県 グループホーム 美鈴ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>一人ひとりの希望に忠実に応える事は出来ていないが、定期的に普段なら行く事ができないような場所へドライブ等でお連れするように努めている。個別の外出についてはご家族に協力いただいている。</p>	<p>広大な敷地を有している為、日常的に周辺の散策を行うことが出来る。外食Dayや買い物Dayを設けたり、ドライブ等での外出も行われている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の所持は入居前にご家族と相談し、なるべく希望に沿う方法をとっている。入居者個々の状態に合わせてお金の使うことへの援助を行っている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>入居者の希望に応じ、電話や手紙のやり取り等は自由に行っていたり、必要に応じて介助している。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は入居者が安心して過ごせるように清潔感と明るさを感じていただけるようにしている。入居者自身の書道の作品や手作りのカレンダーなどを掲示してなじみの空間作りに努めている。</p>	<p>ホールには自宅から持ち込まれた思い出の品や大切な物が飾られたり、入居者、職員、それぞれの書道作品が並べられていたり、ゆとりある広い共用空間内には、各所に工夫や配慮が施されている。ソファや畳スペースも設けられ、くつろぎの場所が確保されている。外出時にはあえて階段も活用しながら、機能強化に向けた取り組みが行われていた。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>入居者間の関係を考慮して席順などを配慮している。気の合った利用者同士一緒に入浴してもらうなど行っている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>希望により本人の思い入れの強い家具や道具を持参して頂き、本人本位の居住スペース作りを支援している。</p>	<p>その人らしい居室づくりへの取り組みは、特筆すべき点であり、趣味に関する品々や、お茶やコーヒーを嗜むための道具、冷蔵庫や固定電話の設置等、生活感あふれるプライバシー空間が確保されている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>段差解消、手摺りの設置など居室内、共有スペースともに安全、安楽に生活が出来る作りになっている。</p>		